

コラム

再生可能エネルギーの普及は” Tipping Point” を迎えたのか？

～第 58 回再生可能エネルギー作業部会 (REWP) に参加して～

戦略・産業ユニット

新エネルギーグループ (兼) 国際動向・戦略分析グループ

研究主幹 奥村 憲博

2010 年 10 月 6～7 日に、オランダのマーストリヒトで開催された REWP (Working Party on Renewable Energy Technologies) に参加してきた。IEA のエネルギー技術の国際的な協力プログラムは、エネルギー研究技術委員会 (CERT) の主導により進められているが、REWP は、この CERT の傘下にある。REWP は、年に 2 回定例会議が開催され、再生可能エネルギーに関する実施協定の取り纏め、メンバー国間の情報交換・議論の場である。今回が、58 回目の定例会合である。

今回の定例会合では、

- トルコ、韓国、スペイン及びイタリアの再生可能エネルギー政策
- IEA の再生可能エネルギー部 (RED) の活動状況 (Global Renewable Energy Markets and Policies, Grid Integration of Variable Renewables Projects, Roadmap 等)
- 戦略マターとして Renewable Industry Advisory Board 設置提案

等に係るテーマで議論が行われた。再生可能エネルギー政策では、特に目を引いたのが、EU メンバーであるスペイン及びイタリアの再生可能エネルギーのチャレンジングな目標設定である。スペインは、2020 年の最終エネルギー消費における再生可能エネルギー比率 20% を掲げ、イタリアは、同様に 17% を設定している。RED の活動も各種調査研究、各種レポートの発行、ワークショップの開催、

国際機関との連携及び発展途上国との連携等活発である。更に、戦略イシューとして、REWP、実施協定及び RED による支援（各種活動への適切な取組、効果的な協力ネットワーク形成、地球規模での公共・民間の再生可能エネルギー展開の促進）を行う諮問委員会（構成メンバー：電力、製造業、エネルギー関連企業、投資機関及び国際機関等）の設置が検討されている。先進国及び IEA 等の国際機関等の再生可能エネルギー普及拡大に向けた動きは、推進力を増してきている。

ここ数年の再生可能エネルギー市場、投資、産業及び政策の変化は急激である。グリッド接続の PV は、過去 10 年間(2000～09 年)で年平均 60%の伸びを示し、100 倍(2009 年時点の設備容量:21GW)になった。風力を見ても、過去 5 年間(2005～09 年)で年平均 27%(2009 年時点の設備容量:159GW)、太陽熱は同 19%、エタノール生産は同 20%の伸びを示している¹。再生可能エネルギー関連の新規発電設備に対する投資は、2008 年及び 2009 年では、新規発電設備投資全体の半分を超えている²。2010 年初頭には、100 カ国以上が、再生可能エネルギー関連のある種の政策及び政策目標を掲げるまでになった(2005 年当初には 55 カ国)³。まさに現在、再生可能エネルギーは、その供給の観点から、Tipping Point (転換点)を迎えていると言っても過言ではないかもしれない。

マルコム・グラッドウェルによると、“Tipping Point”とは、「変化が一定以上の広がりを持った瞬間から・・・止めようのないほど勢いづき・・・アイデア、製品、メッセージ等があたかもウィルスのように広がっていく」状態をさす⁴。マルコム・グラッドウェルは、小さな変化を大きな変化につなげる変革が変革を呼ぶ触媒効果を、米国でベストセラーとなった“Tipping Point”⁵で多くの人に知らしめた。Tipping Point を突破して、好循環を生み、急激な市場

¹ Renewable Energy Policy Network for the 21st Century, Renewables Global Status Report 2010 (2010), p.16-p.25.

² Renewable Energy Policy Network for the 21st Century, Renewables Global Status Report 2010 (2010), p.9

³ Renewable Energy Policy Network for the 21st Century, Renewables Global Status Report 2010 (2010), p.35.

⁴ Peter Senge, The Necessary Revolution: Working Together to Create a Sustainable World (2008), p.203.

⁵ Malcolm Gladwell, The Tipping Point: How Little Things Can Make a Big Difference (2000)

浸透をもたらすためには、政府との協力やイノベーションをとおしての業界全体の水準の引き上げが、必要である。

再生可能エネルギーの昨今のグローバルな普及現状を見ると、先に見てきたように、再生可能エネルギー市場、投資状況及び各国政府の取組等、マルコム・グラッドウェルの言うところの“Tipping Point”の必要充分条件を満たしているようにも思える。“Tipping Point”は、原子力の専門用語では“Critical Mass（臨界点）”という。現在の再生可能エネルギーの普及は、まさに、「臨界点を超え、自己増殖プロセスに入る前の段階」を迎えようとしているかに見える。後世のエネルギー経済学者は、「2010年前後が、再生可能エネルギーの Tipping Point (Critical Mass)であった。」と記すことになるかもしれない。但し、再生可能エネルギーの導入が特に加速してきたのは、FIT 政策等によるサポートを受けてきたここ数年のことであること、昨今、ドイツ及びスペイン等で FIT の買取価格を下げる政策の変更が見受けられること、スペインでは、それを受けて再生可能エネルギーの導入が減速していること等を勘案すると、FIT 等のグローバルな政策動向とそのインパクトに引き続き注視し、見極めていく必要がある。

マーストリヒトは、オランダの南東部に位置するオランダで最も古い町と言われている（ドイツとベルギーの国境にも近く、EUに関するマーストリヒト条約締結の地）。このような歴史ある地にて、再生可能エネルギーの Tipping Point に思いを巡らせることができ、大変有意義であった。また、ワイナリーでのワインとチーズ、街中で頬張ったワッフルが、美味であったことも最後に付記しておきたい。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp